



2023年3月14日

製造業者への告知

標準総合距離 (ODS) において、修正された実際の打ち出し条件 (ALC) でテストされたゴルフボールの使用を要求するエリート競技のためのローカルルールひな型 (MLR) を2026年1月から利用可能とすることが提案されています。

2021年2月1日に、R&AとUSGAはディスタンスインサイトレポートとディスタンスインサイトプロジェクトの結論:ゴルフにおける飛距離の影響からの研究結果に対処するための潜在的な用具規則の変更に関連する一連の研究トピックを規定した文書の通知を行いました。要約すると、その目的はフェース中心でのインパクトの恩恵を高めることと同様に、ゴルフコースを長くしていくペースを助長してきた長年にわたって持続する飛距離の増加に対処するための過程を特定することでした。追加的な研究エリアについてのさらなる情報は2022年3月の連絡文書で詳述され、2022年6月の連絡文書でさらに詳細に述べられました。そうした連絡文書では下記の関心を伝えていました：

1. 標準総合距離 (ODS) への適合性を決定するために使われるクラブヘッド速度の増加 (ゴルフボールを最も遠くに飛ばすことができるプレーヤーたちのクラブヘッド速度；特に125~127mphを反映している) を研究すること。加えて、打ち出し角度とスピン量の最適条件の使用を研究すること。
2. (i)ドライバーのスプリング効果 (SLE) を減じること、(ii)フェース中心でのインパクトの恩恵を高めるためにドライバーの慣性モーメント (MOI) の制限を変更することの研究調査をすること。この研究ではドライバーの特性時間 (CT) の値が150 μ s以上で200 μ s以下、慣性モーメントが2,000 g-cm²という低いものに特に焦点を当てていました。こうした変更の可能性は特に潜在的なローカルルールひな型 (MLR) という観点から調査されました。

私たちはこうした研究エリアに関して利害関係者から意義深いコメントを受け取ったことを認めたいと思います。すべてのコメントは2011年11月に採択された用具規則制定手順に従って慎重に評価され、検討されました。

項目1に関して、利害関係者から受け取ったフィードバックに基づき、R&AとUSGAは適合性を評価するために個々のゴルフボールの各モデルに最適化された打ち出し条件の使用をもはや検討しません。各

ボールモデルに最適化された打ち出し条件の使用は、重大な付加費用と時間を含め、ゴルフボールの開発とテストにおいて課題を引き起こしたかもしれないということを私たちは悟りました。

産業界からのフィードバックと R&A と USGA によるさらなる研究の両方を検討した結果、私たちはアプローチ方法を変更し、これからはエリート競技を対象にしたローカルルールひな型 (MLR) を利用可能とすることを提案していきます。特に、この MLR の提案について、ゴルフボールは標準総合距離 (ODS) の制限である 317 ヤード (プラス 3 ヤードの許容値) への適合性を、修正された実際の打ち出し条件 (ALC)、つまりクラブヘッド速度 127mph、ALC 値 11 度で 37 回転/秒 (2220rpm) でテストされることとなります。

現行の用具規則において、その他のすべてのゴルフボールは現行の ALC 値：クラブヘッド速度 120mph、10 度、42 回転/秒 (2520rpm) を用いて引き続き評価されます。現在の ODS 制限である 317 ヤード (プラス 3 ヤードの許容値) は変更されないままとなります。

すべてのゴルフボールについてのエキップメントスタンダードのテストでは、上記に掲載された適切な打ち出し条件を作り出すように、キャリブレーションボールでセットアップされたメカニカルゴルフファーによって決定されるボールの打ち出し条件を持つこととなります。

ALC を決定する暫定的なスクリーニングとより効果的な方法は研究されていくことにご留意ください。加えて、ゴルフボールの初速 (IV) 基準の減少や削除の可能性 (上記に掲載された MLR 条件ではテストされない) は引き続き評価されますが、現段階では変更なしという提案がなされています。

ディスタンスインサイトプロジェクトの結論では、R&A と USGA はゴルフのすべてのレベルでの飛距離の実質的な減少をもたらす変更は検討していないと述べていました。この MLR 案は、ゴルフイベントの主催者や委員会が一定のエリートチャンピオンシップやトーナメントのために特定のボールを使用することを可能としますが、現在のレクリエーションなゴルフには少しも影響しないでしょう。

この MLR は (最も早く) 2026 年 1 月 1 日から施行できるようになることが提案されています。

2022 年 3 月の告知の項目 2 について、こちらも産業界からのフィードバックに配慮して、R&A と USGA は現時点でドライバーの CT 上限の減少や慣性モーメントの変更を進めていません。

R&A と USGA は CT 上限の減少を追及していませんが、現在の多くのドライバーが CT のクリープのレベルを示している (ドライバーの CT 値が製造時や当初の使用時には適切であるが、特に最も高いレベルの競技で繰り返しの使用の後に不適合になる可能性があるということの意味している) ということを懸念しています。このことは用具規則の目的と意図に反することです。こうしたことから、R&A と USGA はこの現象の包括的な研究を行っています。このトピックについてのさらなる詳細はそのうちにお知らせします。

ゴルフボールの適合性に関するこのローカルルールひな型 (MLR) の提案へのコメントは 2023 年 8 月 14 日が締め切りとなります。